

うつわから 広がる食育 ㉒

資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』
関東学院大学非常勤講師
三信化工株式会社

海老原誠治

えびはら せいじ

佐賀大学物理学科卒業、佐賀県立有田窯業大学校・
常勤講師を経る。

◎政府インターネットテレビ『徳光・木佐の知りたいニッポン～守りつなぎ広める
日本の心 和食』で和食器の給食、出前授業の様子が放送されています。

振り返りと、手持ち教材

「みんな、水はなんで大切な？ 水がないと何に困っちゃう？」

「のどが渴く！」「お風呂！」「食べ物！」

「そうだね、最も重要なのは、飲むこと・
食べること！ 水がないと、植物も動物も
育たないよね。どのくらい関わりがあるか
計算すると、お茶碗山盛り1杯のご飯を作
るのに、お風呂3杯分の水を使うんだって。
だから残してしまったとき、見た目では少
しでも、その裏にはたくさんの物が無駄に
なっているんだよ」

稻作・水・ダム・水不足・節水・食品ロ
スなど社会科や、残さず食べることの指導
など、いろいろな振り返りの場面です。

手持ち教材の工夫

実はこの振り返り、給食中にすることが
多いのですが、その時に使うのがカレン
ダー状の手持ち教材です。これなら準備も
要らず、次々とクラスを回れます。スケッ
チブックに比べ、サイズも自由で見やすく、



▲ご飯1杯にどれだけの水が使われているかを表す図、カレンダー状の手持ち教材にして使用



軽くて、めくりやすい！ 専用のホルダーに、ホチキスで留めた教材を挟むだけです。

「これいいよね！」と評価いただいたのを機に、白井ひで子栄養教諭（東京都小平市立小平第六小学校）にいろいろと試行してもらいました。カラー教材を分割印刷し、貼り合わせたA2資料で試されました。厚口の上質紙だと、重ねても透けずに使えるようです。

教材の使い勝手を聞くため、多くの先生

●うつわから広がる食育セミナー開催！

日時：2018年3月3日 13:15～

場所：きゅりあん1F・小ホール（JR大井町駅前）

内容：日本の食文化の伝え方を、栄養教諭・教育委員会・学校長ら講師が演示を交えながら、さまざまな切り口で紹介します。

第1部 無料／第2部 懇親会のみ実費

☆手持ち教材2枚、無料で配布します☆

お申し込み・詳細：

QRコード (<https://itadakimasu.info>)

または「いただきます.info」で検索し、セミナーの詳細をお確かめの上、お申し込みください。

※食育関連会社が連携して開催





▲手持ち教材を使って演示する白井ひで子栄養教諭
(小平市立小平第六小学校)

に試行いただいているが、おおむね好評です。ホルダーは、インターネットで数百円で見つけられますので、皆さま自身で試すのも容易です。ご興味ある方は、左記記載の「うつわから広がる食育セミナー」において、参加者全員へサンプルを無償配布致しますので、ぜひお試しください。

さて追記ですが、和食器を使った給食と出前授業の様子を、政府インターネットテレビ『守りつなぎ広める 日本の心 和食』(動画配信中)で、かなり丁寧に取材してもらいました。参考にしていただけましたら幸いです。

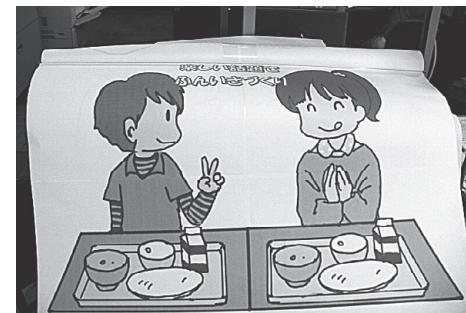
知りたい！ うつわと食のミニ知識

がいろめ きぶし 蛙目粘土・木節粘土と瀬戸物Ⅱ

～白い川の街～

今の仕事に就き、出張で瀬戸～多治見地区を訪れた時、不謹慎ですが、最も期待したのは、表題に添えた白い川でした。小学生のころ読んだ『白い川の白い町』(山口裕一、北島新平著)の印象的な記憶があったからです。この地域では、子どもが写生で描く川が白いことから話が始まります。

この本が出版された時代は高度成長期、特に「公害」という単語を耳にしたころです。物語では児童により、白い川の原因が瀬戸の陶磁器であるという思い込みと矛盾から自発的な調査が始まります。その過程は、かなり突っ込んだアクティブラーニングにもみえます。やがてガラス製造の主原料である珪石(主成分:石英=白く乱れて成長した水晶)の採



▲A2の厚口上質紙を貼り合わせ、活用されている教材

※授業に使える食育資料、情報発信！
『いただきます.info』 <http://itadakimasu.info>

取が原因だとたどり着きます。瀬戸近辺の採石所は「グランドキャニオン」と比喩され、公害に至るほどに採掘されます。裏を返せばその分産出するのです。珪石は高い耐火性を持ち、ガラスだけでなく陶磁器にも重要な成分です。瀬戸地区一帯に広がる珪石が風化した土砂が東海湖(前号参照)に溜まったため、耐熱性の高いしっかりした蛙目粘土・木節粘土が生まれ、瀬戸物という産業を生みました。

筆者が訪れた時、今は当然、この地域の川には草が茂り、白い川の面影は見られませんでした。が、現在でもしっかり瀬戸をはじめとする陶磁器産業は続いています。



徳利
(推定瀬戸)